



SETAGAYA TRUST 30th Anniversary

トラまちPress

SETAGAYA TRUST & COMMUNITY DESIGN

一般財団法人 世田谷トラストまちづくり情報誌
<https://www.setagayatm.or.jp/>

2019年10月

発行：一般財団法人 世田谷トラストまちづくり
〒156-0043 世田谷区松原6-3-5(梅丘分庁舎1階)
TEL 03-6379-1621 FAX 03-6379-4233

No. 10

みどりを取り入れた暮らしは「生き方」を豊かにしてくれます。

北欧スウェーデンで生まれ育ち、現在は日本で庭師として、またさまざまなメディアでも活躍されている村雨辰剛さん。

本号は、村雨さんを成城五丁目猪股庭園に迎え、お話をうかがいました。



スウェーデンからはるばる日本へ。“村雨辰剛”と名乗るほど、日本に惹かれた理由はなんだったのですか？

中学生の頃から、海外に行きたい、しかもなるべくヨーロッパ圏とは違う文化の国で暮らしてみたいという思いが強かったんです。アジアの国に興味を惹かれましたが、中でも日本は歴史も文化も独特で、とても印象に残りました。高校時代に2回旅行で訪れ、19歳のときから日本で暮らし始めました。

そこで、庭師という仕事を選ばれて…

はい。最初は語学を教えるという“自分にできること”を仕事にしていたんですが、日本での生活に慣れてくると、次第に“自分がやりたいこと”を見つけてライフワークにしたいと思うようになりました。せっかく日本にいるのだから、日本の伝統に関わる仕事がしたいと…。徒弟制度にも興味があり、弟子入りも経験してみたかったです。庭師は、ひと言で言えば、とてもやりがいがある仕事。日々違う現場で作業をするので、もともと建築に興味があった僕にとって、和をテーマにした美術館に日替わりで通っているような喜びがあります。作り手の美学や考え方を感じ、またそれをどのように受け止めて手入れをするのか。そういう一つひとつを見聞きできることが本当に勉強になります。



最近ではテレビ・ラジオや雑誌などでもご活躍されていますが、メディアに登場されるようになって、なにか変化はありましたか？

僕の本職はもちろん庭師ですが、メディアなどでの活動を含め、いろいろなことができるようになりたいと思っています。さまざまな経験によって成長し、それを庭師の仕事に活かしていきたい。実際に、トークイベントなどに出演した経験が、お客様とのコミュニケーション改善に役立った実感がありました。庭師だからこそ、庭のことだけにこだわるのではなく、チャンスがあればそれを活かしていきたいですね。

庭造りではさまざまな植物を扱っていらっしゃると思いますが、お仕事以外で、みどりをご自身の暮らしの中に取り入れられていたりしますか？

愛知の修業時代から育てていた盆栽を数鉢持っていますが、都会のアパートだと手入れが大変ですね。保管する場所や光、温度、風…すべてが生育に影響してしまうので。ただ水だけあげていればいいわけではなく、この植物がどんな風に伸びるんだろう？と計算し、考えながら育てていく盆栽の楽しみは“和”ならではの楽しみです。

楽しみといえば、最近は骨董品を集めるのも好きになり、ネットで時代家具屋さんを探して和雑貨を買ったりしています。

スウェーデンも日本も自然が豊かな国ですが、みどりや自然に対する考え方の共通点、相違点はどんなところですか？

やはり、どちらの国も自然を上手に取り入れて生活していますよね。自然な木目を活かしたり、光を上手に取り入れられたりする建築も多い。ただ、スウェーデンはヨーロッパの影響を受けているので、庭に関しては人工的な印象です。造ったときに完成形で、それを維持しようとする。一方、日本は経年変化、経年美化を大切にしますよね。苔が生えてきてもそれを“味”ととらえて残す。僕は、それがとても良いと思うんです。自然に任せるといふ発想が好きですね。



みどりを取り入れた暮らしには憧れるけれど、手入れのことを考えるとちょっと躊躇してしまうという人に、何かよいアドバイスなどがあれば教えてくださいませんか？

手入れや管理はどうしてもついてくるものなので、人によっては難しい場合もあると思います。ただ、僕の実感として、みどりがあると暮らしが変わってきます。ゆとりがないからみどりを置かないのではなく、ゆとりを生み出すためにみどりを置く。すると、自分の中の優先順位が少しずつ変わって生活が豊かになっていきますよ。

今回、世田谷にお邪魔して、「家を持ったら庭をつくるのが当たり前」だった昭和時代の日本の空気を感じました。みどりが豊かな街並みには、やはりゆとりを感じます。時間の流れも緩やかですね。

僕は庭つきの戸建てに住んでいなくても、みどりは十分楽しめると思っています。庭師は広い意味で家の外の空間を請け負う仕事です。植物を含めたエクステリアを考案する機会も増えていきます。「バルコニーやベランダで植栽をしたい」「門まわりをみどりで彩りたい」といったような相談でも、気軽に庭師に声をかけてもらえたらうれしいですね。

世田谷ではみどりや歴史的な建物、魅力的な街並みなどを“地域の宝物”と呼んで、地域の方々とともに守り育てていこうという“世田谷のトラスト運動”を行っています。同じく自然が豊かなスウェーデンでも、こういった活動はありますか？

スウェーデンには古くからの慣習法として“自然享受権”が憲法でも保障されていて、つまり「自然はみんなのもの」という考え方です。私有地であっても、みんなが山に入ってキノコを採ったり、スキーをしたりしてもいいんです。もちろん個人宅の庭はダメですけどね（笑）。

僕の感覚としては、スウェーデンには日本のようなボランティアという文化はあまりなかったように感じます。社会保障が高い分、職業として確率されている部分もあるのかなという印象です。

ですから、日本に来て「みんなで力を合わせて、地域を良くしていこう、守っていこう」という文化はすごいと思いました。学校での生徒たちによる掃除なども、「自分たちが掃除をしたのだからきれいな状態を保とう」という気持ちにつながるといいますし、自分の時間を地域貢献に提供するという考え方も素敵ですね。

日本で暮らしはじめたばかりの頃、僕も地域の方に声をかけていただいて草刈りやドブ掃除と一緒にやることで、なじむことができました。1人暮らしの方でも、近所の方たちとの絆が生まれやすよね。

では最後に、ボランティアの方など世田谷のトラスト運動に取り組む皆さんにひとことお願いします。

世田谷エリアは地域の方々が自然やまちに関わることが盛ん而同って、素晴らしいと思っています。日本に来た僕が「こんなやり方、暮らし方があるのか！」と感動した文化。「これぞ日本！」という文化のひとつだと思うので、これからもぜひ続けていってほしいと思っています。

ありがとうございます。世田谷には地域の宝物として自然や歴史にふれられる場が数多くあります。これをきっかけに、ぜひ訪ねてみてください。

はい。行ってみたいと思います。今日はどうもありがとうございました。



世田谷のトラスト運動

東京23区の中でもみどりや水辺などの自然環境や、近代建築などの歴史的文化遺産など、貴重な環境が数多く残されているまち世田谷。世田谷のトラスト運動は、これらを区民共有の宝物として、多くの人々と協力しながら守り育て、次世代に引き継いでいくことを目的に、1989年にスタートした。今年で30年を迎える。英国の「ナショナル・トラスト」運動とともに、地域に誇りと愛着を持った人々が主体的に環境保全を進める「シビック・トラスト」運動を参考とした世田谷スタイルは、都市型トラスト運動のモデルとしても、全国で注目を集めてきた。活動は、公有地、民有地いずれも対象とし、公有地では、貴重な植生が残る特別保護区や歴史的文化遺産が残された公園等を中心に、また、民有地では、「市民緑地」や財団独自制度「小さな森」を中心に、保全活動や身近な自然やまちの魅力を伝える活動を進めている。これまで会員、寄附、ボランティア活動、みどり創出の協力など、多くの方々が多様な関わり方を通じて参画しており、現在、年間約5,000名の方々とともに運動に取り組んでいる。



成城五丁目猪股庭園

旧猪股邸は、(財)労務行政研究所の理事長を務めた猪股猛氏ご夫妻の邸宅として1967年に建てられた。主屋は、文化勲章を受章した建築家・吉田五十八氏の設計によるもので、武家屋敷風の趣がある数寄屋造りの建物である。内部は、伝統的な和風建築に見られる柱や長押、天井の回り縁といった部材をできる限り取り除き、すっきりとした吉田流といわれる近代数寄屋の特徴が随所に見られる。邸内にはアカマツやウメ、モミジをはじめとする多くの樹木や居間の前の庭にはスギゴケが植えられ、一部に水路を配し、その廻りに園路を巡らせた回遊式の日本庭園となっている。ボランティアが建物と庭園の案内・解説を行っている。※1月と8月は庭園保護のため、庭園路の散策は不可。建物内の見学のみ。所在地:世田谷区成城5-12-19 交通:小田急線「成城学園前」駅下車 北口または西口徒歩7分

村雨 辰剛 Tatumasa Murasame

1988年北欧スウェーデン生まれ。日本語、スウェーデン語、英語を使うトライリンガル。趣味は筋トレ、肉体的改造、盆栽。幼い頃から英語が得意で外国に興味を持つ。スウェーデンとなるべく違う環境と文化の中で暮らしてみたいという気持ちがきっかけで日本に興味を持ち、日本語を勉強し始める。日本語の上達とともにその気持ちはいつか日本で日本人として暮らしたいという目標に。高校を卒業後、特技である語学能力を活かし日本で語学(スウェーデン語や英語)の教師として働き始め、2015年に日本に帰化。2016年からは庭師の仕事を続けながら、多数のテレビ番組やラジオ番組、CMなどに出演している。

共通の楽しみがまたひとつ。

室井さん：袋小路に面した6軒。そのうちの3軒で1年前からガーデニングをはじめたのが『ゆらの庭』です。もともとは、LINE でつながっている飲み仲間。砧公園でお花見をしたりするご近所さんでした。

出井さん：私たちの庭は1軒分だけだと小さくて、各家のお庭が続くと素敵だろうなと何気に話していました。たまたま「3軒からはじまるガーデニング支援制度」のチラシを見つけて、私たち3人で始めてみることにしたんです。

横井さん：「ゆらの庭」と命名したのは、室井さんですね。

室井さん：「ゆらりとくつろげるお庭で、みんなでお酒が飲みたいな」という想いが込められています（笑）。私たち、結構手抜きスタイルですよ。今、ゆらの庭には当初予定していたのとは違う花が咲いています（笑）。

出井さん：気づいたのは、植物ってその庭に合ったものが伸びていくということ。手を抜いたら抜いたなりに、その人に合った庭に成長するんですよ。我が家はお水さえあげていれば、庭自身が育っていく（笑）。

横井さん：我が家もあり手を入れなくても良いスタイルを追求しています。ゆるやかなのは共通ですが、三人三様でまったく違う個性の庭になっていますよね。

室井さん：庭に意識が向いていると暮らしが元気になるんです。先日、母の介護で2週間家を空けたことがあったのですが、疲れて帰ってきて、庭に咲いている花を見たときにとても癒やされました。

出井さん：暮らしに彩りや広がりも生まれますよね。ご近所でも育てた種やハーブのおすそ分けはよくやっていて、春にハーブをお分けしたらおいしいシーフードマリネになって返ってきました（笑）。

横井さん：私たちがゆらの庭の活動をはじめてから、近所にお花が増えてきたなと実感すること多いですね。そういう変化もうれしいです。

室井さん：先日テレビで「おもしろいことを見つけることは生きる力になる」と言っていて、「まさにそうだな、ガーデニングは私たちの生きる力だな」と、みんなと庭でおいしいビールを飲むたびに実感しています。



3軒からはじまるガーデニング支援制度

ご近所どうしの3軒以上が、道に面した敷地で行うガーデニングに対して、アドバイザーの派遣や緑化資材購入費の一部助成などの支援をしています。

身近な自然を楽しむ、

マイ世田谷暮らし

想い続けた暮らしを実践！

花やみどりが大好きなので、東京農業大学が開催しているグリーンアカデミー（GA）に「退職したら絶対に通おう！」と現役時代から思っていました。GAには4年ほど通い、2年目から砧公園のボランティアを始めました。これが、私の世田谷での活動のスタートでした。

『いらか道市民緑地』でのボランティア活動をするようになったのはこの4～5年くらいですが、みなさん気さくでそれぞれが思い思いに活動できるのが魅力です。ルールも最低限で「雑草だけは取ろうね」というくらい。だから、知らない間に「あの芙蓉、キレイだけど誰が植えたの？」なんてことも起こります（笑）。

みんながこの緑地を、自分の庭のように大切に思っている。だから、一度植えた植物は、みんなで丹精込めて育てます。ほかに果物や食べられる植物がたくさんあることも魅力。柚子のジャムや干し柿、カリンジューズなどを作り、みんなで持ち寄って「おいしいね」と言い合いながらいただけのが楽しいひとときですね。

花に囲まれていたくて、今はこの緑地のほかに砧公園や中学校の園芸ボランティアもしています。予定がいっぱいで忙しいのですが、これは在職中からずっと思い描いていた暮らし。学んだことを実践できる場でもあり、毎日が充実しています。試行錯誤しながらも手をかけてやると、植物は応えてくれる。葉はイキイキとし、実ったものはいっそう甘く感じます。

活動中、緑地に訪れてくれた方々とのおしゃべりも楽しみのひとつ。知らない者同士でも「植物が好き」という土台が共通していると、なにか通じ合うのも不思議ですね。いろいろな人たちと話すことで世界が広がります。この充実した日々を、可能な限り続けていきたいと思っています。



いらか道市民緑地のヨウコウザクラ

人との出会いが宝物。

生まれも育ちも喜多見という、正真正銘の喜多見っ子。このあたりの土地の歴史や自然、寺社仏閣には詳しいですよ。世田谷で今も昔も変わらないものと言えば、やはり自然の豊かさ。会社員時代から写真を趣味にしていますが『野鳥ボランティア（鳥ボラ）』に入ってから、被写体は「より鳥み鳥」で困ることはありませんね（笑）。

私は、写真を撮るときは、ドラマを大切にしたいと思っています。子育て中のコチドリは、カラスやアオダイショウといった天敵が近づくと、弱っている演技をして巣や雛から注意をそらす。そんな心を打たれる親子のドラマの瞬間を切り取るのが好き。

この、世田谷の自然を撮るという趣味が、鳥ボラの活動にもつながっていきます。ボランティア活動をしている人も写真を趣味にしている人も、情報が早い。「あそこにツバメの巣ができたよ」「あの橋の下タヌキの親子、今日はこんな感じだったよ」と、鳥や動物たちの様子を共有して、一緒に見守っている感覚があります。カメラを向けると「カワセミですか？」とよく聞かれます。

トラまちの野鳥観察会や小学校の探鳥会にも協力しているのですが、野鳥の姿を見て目を輝かせる子どもたちの表情を見ると、本当にうれしくなります。

鳥ボラは多くの委員会があって、比較的頻繁にミーティングを行う団体なのですが、他にも、自分の写真を地域の広報物に使っていただく機会なども増え、いい意味で想定外のリタイア生活を送っています。会社員時代には、自分が退職後、これほど多忙になるとは思っていなかったんです（笑）。

地域との繋がりはもともと持っていましたが、ボランティア活動を通じて新しいネットワークもできました。人との新しい出会いが、世界を広げ、それが自分のものになる。それは、宝物と言えるもの。だから、時間と体力が許す限り、今後もいろいろなところにお邪魔したいですね。



野川で今年生まれたカワセミの幼鳥（原田さん撮影）

国分寺崖線が好き！

息子が高校3年の夏、進路の話で言い合いになりました。「俺にばかり好きなことはないのか聞けけれど、母さんはやりたいことがあるの!?」——そんな息子のひと言にハッとしたんです。間もなく子育ても終わる。そろそろ、自分のフィールドを持つべきなのかも…。それが『成城三丁目緑地里山づくりコア会議』に参加したきっかけでした。

はじめの頃は、経験あるボランティアさん達の様子に、「私なんて…」とくじけかけましたが、そのたびに、「私だってやりたいことをやっている」と息子に言えるようになるんだ！と自分を奮い立たせていました（笑）。

世田谷は驚くほどに自然が豊か。もともと古地図を見ながら水路巡りをするのが好きだったので、調べるほどに「これほど自然と人がうまく融合しているまちはない！」と感動し、お気に入りの場所が増えていきました。

とくに好きなのが国分寺崖線。普通なら斜面をつぶしたり擁壁にしようところを、みどりのラインとして都市計画に組み入れているところが素晴らしいですね。旧山田邸で解説のボランティアをしていると、崖沿いに家を建てて多摩川から富士山を臨む景観を大切にしている住人の方たちの心意気にもふれられる気がします。

その素晴らしさを小学校での里山授業の際に伝えたのですが、子どもたちの反応は今ひとつ（笑）。そこで、イベントで知り合った東京農業大学の学生に声をかけて、模型を作ってもらいました。これが、子どもたちにも好評！農大生は庭道部というサークルをしていて、コア会議の活動にも来てくれました。ボランティアの方たちとも交流が生まれたようで、ボランティア活動って人と人とのつながりも広がってくれるんだなぁと、私自身もうれしくなりました。

模型のようにやってみたいことを提案し、背中を押してもらえる環境は本当に楽しいです。「ゆるくでいいから長く続けてね」という先輩からの言葉を胸に、これからも引き出しがいっぱいの世田谷のお気に入りを探し続けたいと思います。



農大生とのコラボで実現した崖線模型



馬場 三カさん

身近な自然を楽しめるフィールド紹介



成城みつ池を育てる会

都市の中のサンクチュアリである貴重な樹林地の保全のため、調査活動、下草刈りなどの管理作業のほか、季節ごとに開催する体験教室での解説活動などを行っています。

《フィールド》 成城みつ池緑地（成城 4-20, 22）

《活動日》 第1・3土曜、第2・4木曜

いしい ひでたか
石井 秀岳さん



生きものと出会う感動や喜びには息抜き以上の価値があります。

千葉から世田谷に引っ越したのを機に、近所で何か活動してみたいと思い「成城みつ池を育てる会」へ。千葉でも三番瀬干潟のボランティアをしていたので、敷居の高さはそれほど感じませんでした。

もともと昆虫が大好き。子どもの頃は、学校帰りにカマキリを捕まえたり、校庭では常に石をひっくり返して「何かいないかなあ」と探していました。だから、初めてのみつ池で、落ち葉に隠れて越冬しているアカボシゴマダラを発見したときは大感激。小6以来の捕虫網を新調し、昆虫調査活動に関わっています。

今も、みつ池で真っ先にすることは樹名板をひっくり返すこと。よく生きものがいるんですよ、ヤモリとかワガタとか。東京でもワガタが見つけれると話すと、まわりの人に驚かれます。

会には植物のほかに昆虫や鳥に詳しい方もいて、活動に参加するたびに「なるほど」と思う発見がたくさんあります。調査以外にも園路の階段の補修を手伝わせてもらったり、体を使った管理作業にもおもしろさがあります。いろいろな視点や知識を持つメンバーが集まれば、来てくださる方たちの興味や関心も広がりますよね。

みつ池での活動は、僕にとっては週末のもうひとつの居場所のようなもの。息抜きや気分転換といった軽い言葉では表せない価値があります。こういう活動の楽しさを知らずに、仕事だけの生活をしていたらと思うとちょっとコワイ(笑)。仕事の都合で参加できないこともあるのですが、僕のような緩やかな関わり方も受け入れてくれる雰囲気はここにはあります。通勤や散歩の途中に出会う生きものも気になりだして、写真を撮るようにもなりました。

今の目標は、そんな自然の素晴らしさをより多くの人に伝えること。ぜひ多くの方に自然の素晴らしさや豊かさを共感してもらいたいと思います。

週末の新たな過ごし方ができるフィールド

なかんだの坂市民緑地ボランティア

崖線の斜面林ならではの野草や植栽の手入れ、階段の補修作業などを行っています。

《フィールド》 なかんだの坂市民緑地（成城 3-9-3）

《活動日》 第4日曜

野鳥ボランティア

野鳥観察や生息調査等を通じて身近な環境やその変化を見つめています。

《フィールド》 区内多摩川、野川ほか

《活動日》 水曜、土曜

みんなでガーデニングを楽しむフィールド



こもれびの庭市民緑地ボランティア

3本のヒマラヤシギがシンボルのイングリッシュガーデン。四季折々の草花を楽しむ庭は、環境に配慮したエコガーデンをめざし、落ち葉等による堆肥づくりも行っています。ハロウィンやクリスマスなど季節の飾りつけも楽しみの一つです。

《フィールド》 こもれびの庭市民緑地（成城 3-6-20）

《活動日》 第4月曜

いらか道市民緑地ボランティア

かつての樹木畑を公開中。樹木剪定や花壇手入れなどしています。

《フィールド》 いらか道市民緑地（上用賀 5-12）

《活動日》 第1・3水曜

フラワーランド友の会

公園内の花壇管理や花づくりに取り組んでいます。

《フィールド》 瀬田農業公園（瀬田 5-30-1）

《活動日》 月・木曜、花当番

小さな森ボランティア

個人宅の庭の公開（オープンガーデン）日のサポートをしています。

《フィールド》 各小さな森

《活動日》 小さな森オープンガーデン開催日

詳しい活動内容および活動日時のお問合せは

平日 8:30~17:15 03-6379-1624

土日・祝 9:00~17:00 03-3789-6111

一般財団法人世田谷トラストまちづくりトラストみどり課 まで

（財団事務所/松原6-3-5梅丘分庁舎1階）

（ビジターセンター/成城4-29-1）



【財団ホームページ】
世田谷トラストまちづくり
<https://www.setagayatm.or.jp/>



【フェイスブック】
世田谷トラストまちづくり
<https://www.facebook.com/tm.toramachi>



【ツイッター】
世田谷トラストまちづくり
https://twitter.com/setagaya_tm

汗をかいて気分転換!できるフィールド

成城三丁目緑地里山づくりコア会議

国分寺崖線の斜面に広がる2haの緑地は、雑木林・竹林・湧水など多彩な環境を有し、人と自然の関わりを知ることができる「里山」です。

行政・地域・学校・企業と協働で、保全活動や資源の利活用を進め、都市型の里山づくりを実践しています。

《フィールド》 成城三丁目緑地（成城 3-16）

《活動日》 第1・3・5木曜



自然にふれる楽しさを子どもたちとわかちあうフィールド

せたがや野川の会

国分寺崖線の湧水を起源とする野川とその周辺の調査活動を中心に、川とのふれあいや野川の魅力を伝える親子向けイベント「野川せせらぎ教室」も実施しています。

《フィールド》 区内野川 《活動日》 金曜



竹山市民緑地ボランティア

約4,000㎡のモウソウチク林の間伐等、手入れ作業をしています。

《フィールド》 竹山市民緑地（喜多見 5-20）

《活動日》 第2・4火曜

ふくしげ ちかゆき
福重 昌行さん

田舎育ちで野山で遊んだり、柔道を長年やったり、もともと自然や体を動かすことが好きで『竹山市民緑地（竹山）ボランティア』に参加するようになりました。間伐作業ではタケを伐り倒したり担いで運んだり、結構汗をかくけど真っ直ぐなタケがきれいならび、風にそよぐ竹林の中で体を動かすのはとても気持ちが良いです。私は八王子市でも活動していますが、竹山は地元なので気軽に行けるし、もう10年以上通っています。これからも続けていきたいですね。

岡本緑地ボランティア

多様な生物が生息できるようにするための緑地の管理をしています。

《フィールド》 静嘉堂緑地バツタ広場（岡本 2-23-42）

《活動日》 第1・3火曜

せたがや自然環境保全の会

区内の貴重な緑地保全や身近な自然を伝える解説活動を行っています。

《フィールド》 国分寺崖線ほか

《活動日》 第1木曜日ほか

ビジターセンターボランティア

ビジターセンターの子どもプログラムをサポートしています。

《フィールド》 ビジターセンター（成城 4-29-1）

《活動日》 第3水曜ほか

世田谷すみればネット

定期イベントを行いながら、みんなで育む公園の管理運営を実施しています。

《フィールド》 桜丘すみれば自然庭園（桜丘 4-23-12）

《活動日》 第3土曜

NPO法人 砧・多摩川あそび村

直接お問合せください。

<https://www.kinutama.com/>

NPO法人 せたがや水辺デザインネットワーク

直接お問合せください。

<https://mizubedesign.org/>

まちや自然の魅力を伝えるフィールド



経堂五丁目特別保護区ボランティア

屋敷林として植栽された樹林と湧水からなる池のある緑地での調査活動、管理作業を行っています。このほか、年間約10日間の春と秋の一般開放日には解説活動も実施しています。

《フィールド》 経堂五丁目特別保護区（経堂 5-12-13）

《活動日》 第3木曜、春・秋の一般開放日

猪股庭園解説ボランティア

吉田五十八設計の建物と庭園の解説活動をしています。

《フィールド》 猪股庭園（成城 5-12-19）

《活動日》 開園日

近代建築保全ボランティア

近代建築調査や旧山田邸の解説活動をしています。

《フィールド》 区内、旧山田邸（成城 4-20-25）

《活動日》 奇数月第4金曜ほか

トラスト通信ボランティア

トラスト関連の出来事取材し、作成しています。

《フィールド》 区内

《活動日》 水曜

せたがやトラスト彩草会

動植物を細密画で表現し伝えています。

《フィールド》 ビジターセンター（成城 4-29-1）

《活動日》 第2・4金曜

トラストまちづくり大学同窓会

旧小坂緑地の案内や解説をしています。

《フィールド》 旧小坂緑地（瀬田 4-41-21）

《活動日》 開園日

野川とハケの森の会

直接お問合せください。

<https://hakemori.com>

世田谷のトラスト運動30周年

ローカル
「地元・世田谷を楽しむ実践者と語るシンポジウム」を開催します。

2019 **10/5** (SAT)
13:00-16:30

会場: 成城ホール(成城6-2-1)
参加無料 先着200名 申込み不要(当日直接会場へ)



主催: 一般財団法人世田谷トラストまちづくり
共催: 世田谷区
協力: トラストボランティアグループ

【第1部】トークセッション

わたし流“楽しい”からはじまるセタガヤ暮らし

【第2部】パネリストを囲んで自由におしゃべりしませんか。 カタリバ・カフェ

- 住んでいるまちで何かしたい
- 地元の友達を増やしたい
- 身近な自然を通じた楽しみ
- 地域のシンボルを通じた楽しみ
- 暮らしにみどりを取り入れた楽しみ

まちあるきカタリバ ※当日先着 20名

会場周辺の各市民緑地や旧山田邸、緑の街並みなど
地元の魅力を体感し語ろう。

【企画展示】

世田谷のトラストボランティア、30年のあゆみ

★イベント終了後、交流会を行います ※希望者のみ(有料)

語ろう! わたし流
“楽しい”からはじまる
セタガヤ暮らし

地域のコミュニティと
環境を活かして
暮らしを創り出す
まちづくりプロデューサー
甲斐 徹郎

(株)チームネット代表取締役
都留文化大学講師



ファシリテーター

区民とともに
守り・育て・つなぐ
緑の風景づくり
東京農業大学准教授
入江 彰昭

東京農業大学地域環境科学部
地域創成科学科 准教授(造園学、
環境計画学)



パネリスト

街の木に「活かす」視点を取り入れて、
その魅力と価値を最大化

建築・木工・都市林業家
湧口 善之

(一社)街の木ものづくりネットワーク代表理事
都市森林(株) 代表取締役



パネリスト



パネリスト

次世代につなぐ
都会の持続可能で
豊かな暮らしを实践
地域共生のいえオーナー
近藤 ヒデノリ

広告会社クリエイティブデザイナー
アーバンパーマカルチャー実践者



パネリスト

「みどりのチカラ」=
「まちの力」を、
各地で実践
グリーンアドバイザー
牧野 ふみよ

NPO法人Green Works代表
NPO法人大田・花とみどりの
まちづくり事務局長

崖からしみ出る地下水で生きものを
飼ったのが、湧水への興味の始まり?

環境保全ボランティア
今田 裕実子

成城みつ池を育てる会、成城三丁目緑地里山づくりコア会議、
せたがや自然環境保全の会、せたがや野川の会 所属



パネリスト

広告スペース